



ふくおか【Good👍】農業人100

主な農産物／ミニトマト、フルーツトマト、米、大麦、大豆

島田 純一さん (26歳) (営農地／田川市川宮)

トマト農家への就職。いつかは立派な農家に

《就農のきっかけ》

高校から県農業大学校へ。 そして農家へ就職

「幼い頃、大分で農業をしている叔父の所によく遊びに行っていました。その叔父から『農業は儲かる』『農業をしていれば食いはぐれない』と聞き、農業に興味を持ちました。叔父の手伝いでしていた農作業も楽しく、高校卒業後、県農業大学校へ進学しました。ただ、実家が非農家なので、この時はまだ就農は考えてなかったですね。」

そんな島田さんに転機が訪れました。県農業大学校1年生の時に研修に行っていた普及指導センターから、農家が従業員を探しているので就職先かどうか、とミニトマトの水耕栽培等を行っている企業の農家を紹介されたのです。農作業をしながら、農業技術も学べて、給料も出る。島田さんはこの農家への就職を決め、県農業大学校卒業と同時に働き始めました。



プロフィール

- 家族構成／父、母、本人
- 営農年数／約5年半
- 勤務形態／経営主1名、従業員1名(本人)、パート6名
- 耕作(経営)面積／ミニトマト、フルーツトマト(36a)ほか
- 販路／JA共販、直売、スーパーと直接取引

《これまでの過程》

失敗ばかりの1年目。毎日が学びの日々

県農業大学校では果樹コースを選択していた島田さんでしたが、就職先の栽培品目はミニトマトや米、大豆と習ったことのない品目ばかりで、素人同然。1年目は、何をやればよいか分からずに怒られたり、失敗してばかりで、大変だったと言います。雇用主から、作業を丁寧に教えてもらったり、毎日の作業の終わりに行われるミーティングで段取りの大切さを学んだり、作業の記録をしっかりと付けることでその後の作業がいかにスムーズに行えるようになるかを学びました。

おかげで、2年目からはようやく流れが分かってきて、3年目からはある程度作業を任されるようになりました。「自分が来てから、雇用主も新しい品目にチャレンジするなど、余裕が出来たようで、うれしいです。作業も任せられ、責任はありますがやりがいもありますよ。ただ、叔父から聞いていたほど農業は甘くないですね(笑)。」

《これからの展望》

トマトの収量を安定させて 立派な農家になりたい

島田さんの今の目標はミニトマト、フルーツトマトの収量の安定。冬場は寒くて、どうしても収量が下がってしまいますが、同時に単価も上がる時期。この時期にうまく量を出せる技術を身に付けたいとのこと。そして技術向上と併せて、自分がこれから農業とどう向き合っていくか、じっくり考えていきたいそうです。

また、島田さんは現在、地域の若手農業者クラブに所属しています。「これからの日本の農業が心配です。引退する人や耕作放棄地が増えていますが、農業を始める若者は少ない状況です。いつか私も、今の雇用主のような立派な農家になり、農業に興味のある若者を育てていけるようにしたいです。」



Good👍 成功の ためのポイント

大事なものは、途中で諦めないこと。そのためには、同じ目標を持つ仲間や友人のような同じ価値観を持つ人たちと連携を深められると良いと思います。私も何度も諦めそうになりましたが、そのたびに仲間に話を聞いてもらって立ち直ってきましたから。